

サーサナ

第39号 仏暦2560（西暦2017）年7月7日

四人の妻

釈尊の説法に、ひとつの譬え話があります。つぎのようなお話です。

昔、あるところに四人の妻を持つ男がいました。

彼は第一夫人をとて愛していました。毎日化粧をさせ、寒いにつけ暑いにつけ彼女をいたわり、欲しいものを買ひ与え、行きたいと言うところには連れて行き、食べたいものは何でも食べさせ、寵愛していました。

また第二夫人は美人の誉れ高く、浮気をさせないようにいつも気をかけ、外出の時は常に連れ出し、家に帰ってからは鍵のかかる部屋に入れ、勝手に出て行かぬように見張りまでしました。

第三夫人には毎日会うわけではありませんでしたが、会えば気持ちを通じ合い、互いに喜びあうのが常でした。

しかし第四夫人はといえば、まるで使用人のよう。毎日忙しく働き夫の世話をしているにも関わらず、罵られたり無視されたりしています。夫は第四夫人のことはまるで眼中になかったのです。

ある時、この男は遠い国へ行かねばならないことになりました。そこで第一夫人に、「一緒に行ってくれ」と頼みました。すると第一夫人は涙を流し、「あなたには色々お世話になり大切にさせていただきました。でもそんなに遠い国へ行くのは嫌です」と、断られてしまいました。

しかたなく、今度は第二夫人に同行を頼みました。すると第二夫人は、「あなたの最愛の第一夫人がお断りになったものを、第二夫人の私ができるわけではありません」と、あっさり断われました。

男はがっかりして、第三夫人のもとへ出かけました。第三夫人は「それでは国境までお見送りいたしましょう。でもそこまでにしてください」と、やはりついてきてはくれないようです。

男は途方に暮れて、第四夫人にも同じように言ってみました。すると第四夫人は「親元を離れてあなたに嫁いで以来、常にあなたと一緒にです。だから、どこまでで

もお供します」と答えました。それを聞いて男は、深い後悔の念におそわれました。こんなに自分を思っていてくれる相手をもっと大切にすべきだった、と。

ここで釈尊は尋ねられます。「この男とはだれのことであるか。遠い国とはどこか。また第一・第二・第三・第四夫人とはだれのことであるか」と。

男とはこの「私」のことです。

遠い国へ行くとは、死ぬことです。

第一夫人とは私の肉体のことです。いつも可愛がって甘やかしていた肉体という妻は、死を境にして別れねばなりません。

第二夫人の美人とは財産です。確かにお金は魅力的です。しかしやはり、死後の世界にまで連れて行くことはできません。

第三夫人とは家族や親族のことです。生きている時はお互いに親しみ、離れがたい間柄です。しかし死んだ時は墓場までは見送ってくれるものの、一緒に墓へは入ってくれません。

第四夫人とは、私の「業」です。「親元を離れてあなたに嫁いで以来」とは物心ついて以来、ということです。「業」とは、私が心で思ったこと（意業）、話したこと（口業）、そして身体的活動（身業）の三者、およびその影響力のことです。物事にはすべてその原因があると、仏教では教えています（縁起）が、これを逆にいえば、私たちがなす行いには必ず結果を伴います。それは私の命が終った後にも、ずっと連鎖して残って行くものです。ですから、私たちは自分の業に責任を持って、注意深く発言し行動せねばなりません。

「無常忽ちにいたるときは国王大臣親昵従僕妻子珍宝たすくる無し、唯独り黄泉に趣くのみなり。己に随い行くは只是れ善悪業等のみなり。」

（道元『正法眼蔵』）



帰敬式受式おめでとうございます

6月28日、下記の3名が、当寺第10回帰敬式を受式され、法名授与されました。今後とも、仏法聴聞・仏道精進されますことを念願いたします。

釋尼成華 釋尼眞證 釋弘願

八月 盂蘭盆会（うらぼんえ、お盆）

もともとは、釈尊の弟子の目連尊者が、餓鬼道に堕ちた母を救うために、安居（集中講義）の終わる7月15日に、大勢の出家僧侶に飲食物の供養を行なったことに由来する行事です。

- ❖日時 8月13日（日）午前8時～9時
- ❖内容 勤行（和訳阿弥陀経、正信偈同朋奉讃）、法話（住職）
- ❖持ち物 勤行本（『抄訳佛説阿弥陀経』『正信偈同朋奉讃』）
- ❖記念施本 山崎龍明『正しい考え方』（仏教伝道教会）

盂蘭盆会について個別（家族単位）でのお勤めを御希望の場合は、次のいずれかにより予約して下さい。

1. 本堂でのお勤め

8月14日午前8時より正午まで、15分刻みで御希望の時間を指定していただきます。先着順です。十六家族様まで。

2. 自宅の御内仏前でのお勤め

(1)13日午後、(2)13日夜、(3)14日午後、(4)14日夜、(5)15日午後、のいずれかの時間枠をご指定下さい。午後とは1時から4時まで、夜とは5時から8時までをいいます。これ以外の日時は応相談。

九月 秋彼岸会

彼岸とは、覚りの世界＝涅槃のことです。これに対して、私たちが暮らす現実世界を此岸といい、此岸から彼岸に渡るのが「波羅蜜（はらみつ）」です。

- ❖日時 9月20日（水）午後2時～4時
- ❖内容 勤行（観無量寿経訓読、正信偈）、法話
- ❖持ち物 勤行本『真宗法要聖典』、念珠
- ❖法話 当寺住職
- ❖記念施本 青山俊董『正しい考え方』（仏教伝道教会）

佛説観無量壽經
宋元嘉中夏夏耶舍譯
如是我聞一時佛在王舍城耆闍崛山中與
大比丘衆千二百五十人俱皆薩三萬二千
文殊師利法王子而爲上普
爾時王舍大城有一太子名阿闍世隨順調
達惡友之教收執父王頻婆娑羅幽閉置於
七重室內制諸羣臣一不得往國大夫人名

十月 おみがき奉仕

真鍮の仏具磨きをします。仏具を磨いて心も磨く。。。。

- ❖10月12日（木）午前9時～11時

十月 報恩講（ほうおんこう）

報恩講とは、浄土真宗の宗祖・親鸞聖人（1173-1262）の御命日にあたり、宗祖への報恩謝徳をあらわす法要です。浄土真宗では最も重要な法要で、「お仏事」といえば報恩講のことをいいます。

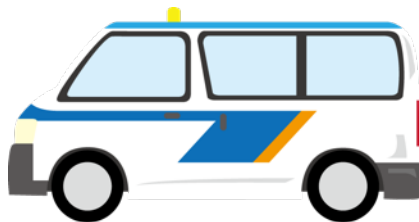
- ❖日 時 10月29日（日）午前10時～午後3時
- ❖内 容 午前：勤行（文類偈真四句目下・念仏讃洵五）および法話
おとぎ（昼食）
午後：親鸞聖人御絵伝解説
- ❖持ち物 勤行本『報恩講勤行テキスト』、念珠
- ❖法 話 前田和丸師（一心寺住職）
- ❖記念施本 法語カレンダー（真宗教団連合）ほか

十一月 本山報恩講参拝ツアー

本山・東本願寺では報恩講が11月21日から28日にかけて厳修されます。

当寺では21日午前の音楽法要に団体参拝いたしますので、参加者を募ります。

昼食は、京都東急ホテルの京料理「たん熊北店」にて。午後は、京都国立博物館の「開館120周年記念特別展覧会」を見学します。日本の国宝885点のうち、200点以上が4期に分けて展示されるという、同博物館の総力を結集した展覧会です。（11/21は第4期になります）



- ❖日 程 11月21日（火）日帰り
- ❖交 通 全行程をジャンボタクシーで移動します
- ❖行 程 7:30 教心寺出発
9:30 本山参拝（法要・ギャラリー見学）→ 12:00 昼食
→14:00 京都国立博物館 → 19:00 教心寺帰着
- ❖費 用 17,000円（当日お支払い下さい）
- ❖申込み 電話・メール・FAXなどによりお申し込み下さい。
先着8名までとさせていただきます。

真宗大谷派 教心寺（名古屋教区第30組）

編集発行人 釋眞弑（山口眞一）

468-0026 名古屋市天白区土原3丁目205番地

電話：801-1381 FAX：807-1198 電子メール：kyosin@nagoya30.net

URL <http://www.nagoya30.net/temple/kyosin/>
